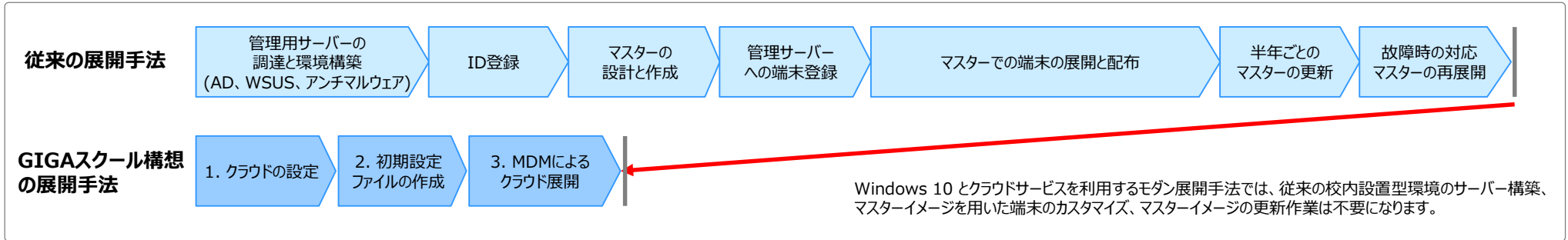


GIGAスクール構想の実現に向けた1人1台端末整備 キットについて

Windows 端末の場合

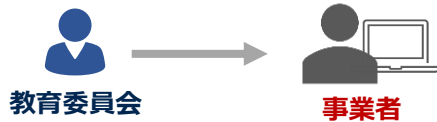
「GIGAスクール構想」では児童生徒1人1台端末の整備で行うキッティング作業は、クラウドサービスの利用が前提になっていることから、わずか3つのステップで完了します。従来の校務用パソコンや、パソコン教室の端末のキッティング作業とはまったく異なり、高速で簡便です。クラウド上で提供される認証基盤と端末管理ツール（MDM）を利用することでインターネット接続された端末を簡単・迅速にカスタマイズすることが可能となります。また校内無線LANへの接続や端末を管理基盤に登録するプロセスも自動化する仕組みも提供されます。



ステップ 1 クラウドの設定

a. テナントの取得と ID の作成 (教育委員会・事業者)

教育委員会がテナントを取得します。事業者は教育委員会から提供されるユーザー情報をもとにIDのリストを作成し、児童・生徒のアカウントをテナントに登録します。



ID登録に必要な情報など

b. MDM の設定 (事業者)

Intune for Education (MDM) に端末管理のための設定を行います。

ステップ 2 初期設定ファイルの作成

初期設定ファイルの作成 (事業者)

校内のWi-Fi ネットワークの設定とMDMへの端末登録を自動化するための初期設定ファイルを作成します。



ステップ 3 (現場作業) MDM によるクラウド展開

a. 端末を MDM に登録 (事業者)

端末の電源をONにし、USBメモリを挿すだけで端末の初期設定が完了します。



b. MDM による展開 (自動処理)

児童・生徒が端末にログインすると 1-b で設定したMDMの内容が端末に自動適用されます。

OS管理

出荷時にサポート期間中のOSとなっています
運用開始後、MDMによって管理され、OSは夜間に自動アップデートされます

アプリケーションのインストール

Microsoft 365 Apps プリインストールモデルも提供
アプリについては運用開始後 MDM を用いて適用

問い合わせ先

教育委員会様向け
事業者様向け

<https://www.microsoft.com/ja-jp/biz/education/default.aspx>

<https://www.microsoft.com/ja-jp/biz/education/default-partner.aspx>